様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24 年　5 月　22　日現在

機関番号：22604
研究種目：若手研究(B)
研究期間：2009～2011
課題番号：21730275
研究課題名（和文）ジョン・ブライトについての新解釈―選挙区と日本における視点から

研究課題名（英文）Reinterpretation of John Bright: His constituencies and historiography in Japanese scholarship

研究代表者
岩間　俊彦　（IWAMA　TOSHIHIKO）
首都大学東京・社会科学研究科・准教授
研究者番号：20336506

研究成果の概要（和文）：ジョン・ブライトは、19 世紀中葉のイギリスにおいて、社会運動・政治運動の指導者だけでなく国会議員として活躍した。本研究では、第一に、徳冨蘆花のブライトの伝記から第二次世界大戦後の学術的研究という、日本におけるブライトの紹介・受容の過程と歴史的背景を示した。第二に、ブライトと 1857-1889 年の間に出身選挙区であったバーミンガムとの関係について、同時代の出版物や公共的団体資料の分析から、ブライトに関する公論の形成について明らかにした。

研究成果の概要（英文）：John Bright, M.P. was a political leader who influenced the people as to shape their opinions in support of the Liberals in the mid-nineteenth century Britain. This research, first, examined in what way his ideas and thought had influenced modernisation in Japan. Secondly, this project illuminated public opinions about John Bright in Birmingham, where he was elected as an MP from 1857 to 1889, based on local primary sources.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,400,000	420,000	1,820,000
2010 年度	800,000	240,000	1,040,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
総　計	2,800,000	840,000	3,640,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：経済学・経済史
キーワード：西洋経済史、西洋政治経済史

１．研究開始当初の背景

1840 年代から 1880 年代のイギリスでは、階級闘争、選挙権に関する運動、植民地論争、そして自由貿易政策等の国際的政策論争が行われていた。同時期に、企業家、政治運動家、政治家として活躍したジョン・ブライト（1811-1889）は、盟友のリチャード・コブデンと共に反穀物法運動や自由貿易並びに国際平和主義の主唱で重要な役割を果たしていただけでなく、階級調和を基礎にした政治経済上の改良運動、選挙法改正運動、帝国をめぐる論争においてイギリス政治の中核にいた。

ジョン・ブライトについては、欧米において、彼の存命中から数点の伝記や演説記録が公刊されていた。20 世紀初めから同世紀末にかけても伝記や本格的な歴史研究が公刊され続けており、関連する研究が蓄積されてい

る。しかしながら、20 世紀前半までのブライト研究は、自由貿易の擁護者、政治改革における人民の指導者、そして政治経済の領域で成功したクエーカー教徒といった英雄的側面を過度に強調する傾向があった。20 世紀半ば以降のブライト研究は、ブライトの英雄像を相対化する一方で、同時代の急進主義や政治経済的領域の中でブライトをより精確に把握しようとするあまり、モラル・階級・帝国・自由貿易・国際問題を接合させた彼の活動や主張を個別に評価して、それらをしばしば過小評価するようになった。さらに、1980 年代末までのブライトに関する研究は、国民的な政治家としてブライトに焦点をあてており、彼が国会議員として選出される上で重要な存在となる出身選挙区との関係について、ほとんど考察を行っていないという問題を有していた。

日本におけるジョン・ブライトの研究を調査すると、ブライトについての伝記や研究は、明治中期より昭和初期にかけて、徳冨蘆花によるジョン・ブライトの伝記が出版された他、彼の演説のいくつかが、武藤山治を中心に結成された実業同志会等によって翻訳された。しかしながら、翻訳書の一部やほんのわずかな例外を除いて、20 世紀半ばから 21 世紀にかけて、ジョン・ブライトの伝記や研究は公刊されていない。他方で、ジョン・ブライトへの言及は、彼と関連の深いマンチェスタ学派や自由貿易史の研究、リチャード・コブデンの研究、19 世紀半ばの政治史・外交史研究、ヴィクトリア時代の社会史研究等々の中で見られ、ブライトの政治経済上の活動についても若干の検討がなされている。また、ほとんどの高等学校世界史Ｂの教科書には、反穀物法運動の指導者として「コブデンとブライト」が掲載されている。よって、日本におけるジョン・ブライトの受容に関する分析を含んだ本格的なブライト研究が、現在、日本の学界ではまさに必要とされている。

以上のような研究史の検討から、新たな視点（ブライトの出身選挙区、日本におけるブライトの受容とその影響）からの史料調査に基づいたジョン・ブライト研究が求められているのである。

２．研究の目的

本研究では、第一に、ジョン・ブライトと彼の出身選挙区の関係について、特に、ブライトが全国的な政治的名声や認知を得るようになった 1850 年代末から彼の死去までブライトの出身選挙区となったバーミンガムと、彼の活動、発言、社会関係の関連について、バーミンガムの政治的制度や政治的動向を詳細に検討しながら、明らかにする。

第二に、日本におけるジョン・ブライトの受容とその意義について考察する。すなわち、ジョン・ブライトに関する日本語文献の出版物の受容や影響力、あるいは日本におけるブライトの活動・発言・思想・表象がいかなるものであったのか、という点について、同時代の政治、経済、文化の状況（出版、政界、財界、文化的嗜好等々）を精査する。

第三に、ブライトと選挙区（選挙区の地域社会におけるブライトの活動と基盤）、日本におけるブライトの受容（英国外のブライトの表象）を踏まえて、演説に優れた国民的政治家であり自由主義の擁護者というジョン・ブライト像を再考して、ブライトの新た解釈を提示する。

３．研究の方法

(1)研究初年度（平成 21 年度）には、ジョン・ブライトと選挙区(特にバーミンガム)について検討を行う。

まず、公刊されているジョン・ブライトの日記、演説集、パンフレット、伝記を基礎にして、ブライトによる選挙区での演説の特徴（演説回数、演説の話題や形式、演説内容、選挙区外の地域における演説との相違）を調査する。

次に、所属機関から提供されているサバティカル期間を活用し、バーミンガム大学近代史学科の客員研究員として、バーミンガム中央図書館・文書館にて、バーミンガムで発行されている地方新聞の記事から、ジョン・ブライトに関する証言を析出して、同時代の演説の報道のありよう、演説の引用のされ方、聴衆や会場の状況、書き手による評価等について考察する。

さらに、上記の図書館・文書館における調査から、ジョン・ブライトとバーミンガムの選挙区との関わりが深いと思われる選挙戦や政治的運動（例、選挙法改正運動、アイルランド自治法案をめぐる論争)、政治的結社、地域社会の中核的人物を明らかにする。

また、英国図書館、スコットランド国立図書館にて、ブライトの手稿史料、ブライトと親交のあった政治家等の手稿史料を調査して、19 世紀中頃から後半におけるブライトの選挙区に対する見解を考察する。

これらの調査・分析とあわせて、バーミンガム大学やバーミンガム中央図書館にて調査した資料から、1840 年代から 1880 年代のバーミンガムにおける、地域社会の統治を担う仕組み、統治を担う人物（地域社会のエリート)、バーミンガムという都市空間の活用方法、チャーティストをはじめとする急進主義やその他の政治的勢力の動向とその基盤、これらの政治的制度や活動を支えるバーミンガムの社会構造、について明らかにする。

なお、本研究では、イギリスの研究者と相互補完的に研究を進行させることによって、最新の政治経済史研究や急進主義研究の成

果を取り入れる。
　まず、18－19 世紀のイギリス民衆運動や急進主義の研究を行っているバーミンガム大学エイドリアン・ランドル教授から、マンチェスタ等の民衆運動との比較分析を通して、1840 年代以降のバーミンガムにおける急進主義の動向とその基盤について助言を得る。
　次に、ジョン・ブライトの伝記（1979 年）を公刊したウエールズ大学のキース・ロビンズ教授からは、上記伝記で使用されているジョン・ブライトに関する手稿史料（書簡等）の利用方法について教示をうける。

(2)研究 2 年度（平成 22 年度）には、日本におけるジョン・ブライトの紹介と受容という点から、日本語で刊行されたジョン・ブライトに関する伝記、演説の翻訳、研究論文等の特徴を明らかにする。その際には、出版物の言説の特徴やそれらが生み出された時代背景について、同時代の出版物（特に徳冨蘆花と関連の深かった民友社の出版物、蘆花の兄、徳冨蘇峰の著作、武藤山治による出版物や関連する出版物、同時代の雑誌や新聞）を検討する。
　同年度には、（資料の移転等で 1 年度目に利用不可であった）バーミンガム大学文書館部に所蔵されている（バーミンガム選挙区出身の）チェンバレン文書に収録されているブライトとの書簡を調査して、バーミンガム選挙区に関連した書簡等を摘出した上で検討する。同調査を通じて、ジョン・ブライトが選挙区の決定や移動に際していかなる対応や見解を持ち、地域社会の側にはいかなる背景があったのかということについて、バーミンガムと他の選挙区との比較検証を通じて、選挙区（とりわけバーミンガム）の政治的、社会的、経済的特徴を浮き彫りにさせる。
　また、英国図書館にて、ブライトと親交のあった政治家等の手稿史料を調査して、19 世紀中頃から後半におけるブライトの選挙区に対する見解を考察する。

(3)研究 3 年度（平成 23 年度）には、近年まで利用が困難であったストリートの文書館にて、ジョン・ブライトに関する手稿史料を調査して、ブライトとバーミンガム選挙区に関する証言を集積・検討する。英国図書館でも、ブライトや関連する政治家の手稿の内容の確認を行う。
　過去 2 年間の研究や調査の成果を踏まえて、①19 世紀中頃から後半のバーミンガムにおける政治的特徴は、他の都市との比較検討から明らかとなったか、②ブライトとバーミンガム選挙区との関係は、政治的、社会的、経済的関係から十分に解明されたか、③ジョン・ブライトの日本における受容・影響について、同時代の状況を十分に反映して解明されたか、また出版物等の情報は精確であるか、といった点を検証する。

４．研究成果
　日本における文献調査、イギリスの図書館・文書館における史料調査、そして、調査・収集した史料の検討から以下の点が判明した。
(1)まず、ジョン・ブライトとバーミンガムの関係は、都市の公共的団体や同時代の出版物により異なった評価が見られたこと、また、同時代の政策や世論によって大きく変化したことが明らかとなった。
　さらに、ジョン・ブライトとバーミンガムの関係は、バーミンガムの公的領域のエリートたちとの繋がりに依拠しながら形成されていたことが明らかとなった。
　また、ジョン・ブライトとバーミンガム選挙区の間の関係は、ブライトと選挙民・都市エリート・都市の公共団体との関わりという観点から、1850 年代後半から第二次選挙法改正を経て閣僚となった 1870 年代初めまで、1870 年代から 1880 年代半ばまで、そして、1880 年代半ばからブライトの死去（1889 年）までに区分できることが判明した。加えて、議会改革、外交や対外政策、そして政治家としての理想や活動という点からブライトと選挙区の関係が考察できることも明らかとなった。
(2)日本のジョン・ブライトに関する出版物の調査では、初めてブライトの伝記を著した徳冨蘆花と彼が関わった民友社の活動が密接に関連していることが判明した。また、武藤山治のブライトの演説の翻訳出版については、彼の自由主義的政治経済観の影響が大きいことが確認できた。第二次世界大戦後のブライトに関する学術研究については、わずかな数の翻訳や論文を除いて、民衆運動や急進主義、議会改革、平和主義、マンチェスタ学派という研究対象からブライトが検討されていることを確認した。
(3)以上の研究成果は、ジョン・ブライトとバーミンガムに関する研究、19 世紀以降のバーミンガムの都市社会に関する研究、バーミンガムと比較対象となる同時代のイギリス地方都市に関する研究として、英国や日本の学会等での研究報告や共著書等で公開されており、今後も共著の学術書（英語）や学術書論文（日本語、英語）として公開予定である。
(4)最後に、本研究の結果、とりわけイギリスにおける史料調査によって、近年開館されたストリートの文書館に所蔵されるジョン・ブライトに関する大量の手稿史料の調査と分析を系統的に進めることによって、ジョン・ブライト研究のさらなる進展が可能であることが判明した。これらの大量の手稿史料

の系統的な調査・分析については、新たな研究課題としたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①岩間俊彦、2009 年の歴史学界　回顧と展望　ヨーロッパ　近代　イギリス、史学雑誌、査読無、119 巻 5 号、2010 年、pp.324-331

〔学会発表〕（計 9 件）
①IWAMA TOSHIHIKO、Social improvement and a harmonious society of all classes、The Social History Society 2009 Annual Conference 、University of Warwick、4th April 2009

②IWAMA TOSHIHIKO、Party, middle-class voters, and the urban community 、University of Birmingham, Modern History Seminar 2008-2009 、University of Birmingham、6th May 2009

③IWAMA TOSHIHIKO、Businessmen, politics and public institutions in the Northern English town 、The Association of Business Historians Annual Conference 2009 、University of Liverpool Management School、4th July 2009

④岩間俊彦、党派・中産諸階級・地域社会、経済史研究会、東京大学、2010 年 6 月 7 日

⑤岩間俊彦、バーミンガムにおけるシビック・ゴスペル再考、「歴史と人間」研究会（第 189 回）、一橋大学、2010 年 11 月 21 日

⑥岩間俊彦、バーミンガムにおけるシビック・ゴスペル再考、イギリス都市農村共同体研究会（2011 年度 、専修大学サテライトキャンパス、2011 年 5 月 13 日

⑦岩間俊彦、19 世紀半ばのハリファクスにおける国会議員選挙について、関西学院大学大学院経済学研究科　経済学ワークショップ 2011、関西学院大学経済学部、2011 年 7 月 26 日

⑧岩間俊彦、ジョン・ブライトとバーミンガム、イギリス史研究会（第 24 回 、青山学院大学、2011 年 10 月 29 日

⑨IWAMA TOSHIHIKO、‘The most dangerous foreign politician in the country’ or ‘the greatest orator of modern times’?、The Emergence of the West Midlands、The Woodbrooke Quaker Study Centre and University of Birmingham、1st April 2012

〔図書〕（計 2 件）
①岩間俊彦、吉田伸之・伊藤毅編、東京大学出版会、伝統都市 4　分節構造、2010 年、317(pp.247 - 259 執筆)

②岩間俊彦、岡村東洋光・金澤周作・高田実編、ミネルヴァ書房、英国福祉ボランタリズムの起源、2012 年、237(pp.91 - 109 執筆)

６．研究組織
(1)研究代表者
岩間　俊彦（IWAMA　TOSHIHIKO）
首都大学東京・社会科学研究科・准教授
研究者番号：20336506